



古北地区における日本人集住地域の住宅地
(2013年3月1日 周雯婷 撮影)

地理空間学会ニューズレター

TOPICS

- ・第6回大会のお知らせ(第2報)
- ・第6回大会巡検のご案内(第2報)
- ・第16回例会のお知らせ(第2報)
- ・学会賞受賞者コメント(林琢也, 吉田国光)
- ・学会からのお知らせ
- ・コラム「わたしのフィールドから」(周雯婷)

JAGS

第6回大会のお知らせ(第2報)

地理空間学会では、第6回大会を下記の通り開催いたします。

【日程】

2013年6月29日(土): 研究発表, 会長講演, 評議員会,
総会, 懇親会

6月30日(日): 巡検

【会場】

筑波大学 筑波キャンパス春日地区 (旧図書館情報大学)



○一般発表, 会長講演: 7A棟1階7A105室

○ポスター発表: 7A棟1階7A103室

○評議員会: 7A棟1階7A102室

○懇親会: キャンパス内春日地区食堂

【交通】

つくばエクスプレス線つくば駅下車, A1 または A2 出口より徒歩7分。

【費用】

大会参加費	会員(一般): 500 円
	会員(学生・院生): 無料
	非会員: 1,000 円
懇親会費(予定)	会員(一般・非会員): 5,000 円
	会員(学生・院生): 3,000 円

※別途, 希望者は今年度の年会費の支払いも承ります。

【プログラム】6月29日(土)

- 9:30 ~ 受付
- 10:30~15:40 ポスター発表(7A103)
- 10:30~11:30 口頭発表1(7A105) *は発表者
- 10:30~11:00 橋本暁子*(筑波大)・兼子 純(筑波大)・全 志英(筑波大・院)・横山貴史(神奈川大): 在来市場の分布からみた釜山市の商業的特徴。
- 11:00~11:30 双木俊介(文教大・非): 明治期東京における旧大名屋敷の宅地開発と借地人の特徴一麻布霞町を事例として一。
- 11:30~13:00 昼休み(キャンパス内食堂は営業していません)
- 11:45~12:45 評議員会(7A102)

13:00～15:00 口頭発表2（7A105）*は発表者

13:00～13:30 淡野寧彦*（愛媛大）・包 翠栄（愛媛大・院）・
淡野明彦（奈良教育大・名誉）：中国内モンゴル自治区アラシャー盟左旗における牧畜経営の展開。

13:30～14:00 若本啓子（宇都宮大）：家畜防疫における地理情報の活用とその課題—家畜防疫マップシステムを中心に。

14:00～14:30 貝沼恵美（立正大）：多言語国家における教授用語決定の困難性。

14:30～15:00 泉 貴久（専修大松戸高，筑波大・院）：社会参加能力育成という観点から見た地理教育の意義について—他領域との比較から考察する—。

15:00～15:40 ポスター発表コアタイム（7A103）ポスター賞の投票締切 15:40 まで。

15:45～16:45 会長講演（7A105）

内山幸久（立正大）：日本における果樹生産の展開。

16:45～17:45 総会・表彰式（7A105）

18:00～ 懇親会（キャンパス内春日地区食堂）

【ポスター発表一覧】

P01 新井悠司（筑波大・院）：関東地方における観光行動からみた日光湯元温泉の役割。

P02 青木茂治（水城高・非）：茨城県北部にみられる藁人形の習俗—由来伝承・人形の特徴・行事内容の記録—。

P03 中川紗智（筑波大・院）：近現代における明延鉦山町の変容。

P04 矢ヶ崎太洋（筑波大・院）：東日本大震災以前の記憶と地域イメージの復元—宮城県気仙沼市舞根地区の事例—。

P05 秋元菜摘（東京大・院）：高齢社会における公共交通を利用したモビリティの変化—青森市と富山市の事例—。

P06 上野李佳子（筑波大・院）：景観維持における定年帰農者の役割—山口県萩市を事例に—。

P07 羽田 司（筑波大・院）：長野県須高果樹産地における農協共販の展開戦略。

P08 山中博希（筑波大・院）：神戸市・兵庫運河における機能の変化と地域住民の意識からみた地域活性化。

P09 栗林 慶（筑波大・院）：東濃地域における陶磁器生産の地域分化。

P10 川村一希（筑波大・院）：宇都宮市中心部におけるオフィス立地の変容。

P11 落合李愉（筑波大・院）：群馬県大泉町におけるブラジル人の就労形態からみた生活様式の変容。

P12 久保亮史（筑波大・院）：福岡市における交通流動の時空間構造。

P13 水谷千亜紀（国立環境研）：高時間分解能データセットを用いた土地利用の変遷—つくば市中央部を事例に—。

P14 横山貴史（神奈川大）：東日本大震災と漁業復興—牡鹿半島東浜地区の2年—。

第6回大会巡検のご案内(第2報)

6月30日(日)に大会巡検がございます(雨天決行)。

【巡検テーマ】

「大河川と地域発展—利根川流域の経済と文化をたどる—」

【日時】6月30日(日) 9:30～17:00

【オーガナイザー】福井一喜・益田理広（筑波大・院）

【集合場所】

つくばエクスプレス線つくば駅改札前へ9:30に集合。

【行程】

◆往路（バス）10:00 発

つくば市⇒下妻市⇒古河市内工業団地周辺

・古河市内（徒歩）

古河駅前商業地域（11:30 着予定）⇒古河駅東口＜昼解散＞
⇒古河駅西口再集合（13:00）＞

古河駅前再開発⇒地域産業における蔵の利用⇒篆刻博物館
⇒古河第一小学校⇒旧古河城内の街並み⇒文学館⇒歴史博

物館⇒旧商家⇒日光街道⇒再開発地域(2)⇒古河駅前（15:30
～16:00 着予定）

◆帰路（バス）

利根川⇒坂東市⇒常総市⇒つくば市（17:00 着予定・つくば
駅前解散）

往路および帰路においてはバス車内にて工業、農業等に関
するご案内を行ないます。

※帰路においては16:00 ごろバス乗車前に古河駅にて途中帰宅
が可能です。

【参加費】4,000円程度（昼食費別）

※巡検の参加には事前申し込みが必要です。

巡検参加ご希望の方は、電子メールにて、件名に【巡検申込み】を、本文に参加者（全員分）の氏名、所属、当日連絡可能な連絡先（携帯電話番号など）を記入の上、益田（reco.mashita@gmail.com）までご連絡下さい。

締め切りは 6 月 20 日（木）とさせていただきます。具体的な巡検行程、最新の情報につきましては、地理空間学会 HP（<http://jags.ne.jp>）をご参照下さい。なお、誠に勝手ではありません

すが、巡検行程や巡検の形式上、定員を 45 名とさせていただきます。また、締切以前でも定員に達し次第、受付を締め切らせていただくこともありますので、ご容赦下さい。

第 16 回例会のお知らせ(第2報)

地理空間学会では、第 16 回例会を下記の通り開催致します。

◆日時：2013 年 9 月 21 日(土)

14:30～17:30

◆会場：筑波大学東京キャンパス文京校舎 119 講義室

東京都文京区大塚 3-29-1

◆交通：東京メトロ丸の内線茗荷谷駅下車「出口 1」より
徒歩 2 分程度

http://www.tsukuba.ac.jp/access/bunkyo_access.html

◆報告者・題目

・西山弘泰（うつのみや市政研究センター・研究員）：

「東京圏郊外における都市化と小規模開発住宅地の変容
ー埼玉県富士見市関沢地区を事例にー」

・阿部和俊（愛知教育大学・名誉教授）：

「私の研究遍歴ー人文地理学のアイデンティティ再考ー」

※終了後、会場近くで懇親会を予定しています。

※本例会は、経済地理学会関東支部 9 月例会との共催です。

学会賞受賞者コメント

この度、地理空間学会 2012 年度（第 5 回）学会賞の奨励賞を受賞された林琢也会員、吉田国光会員から受賞のコメントをいただきました。

奨励賞 林琢也会員（岐阜大）

このたびは、既発表論文 3 編の成果を地理空間学会・奨励賞に選定して頂き、本当に有難うございました。

振り返れば、今から 10 年前の 2003 年 4 月に大学院に入学した時は、観光農業（アグリ・ツーリズム）が自分の研究テーマになるとは思いませんでした。転機となったのは、同年 9 月に修士課程の野外実験で調査した福島県相馬市のイチゴ狩りの観光農園でした。聞き取りを行った生産者の方々の生き生きとした表情や語り口に魅了され、こうした農業経営に興味を覚えました（「自然と暮らし」11）。その後、研究テーマを固めていく中で、私は生産者が地域内でアグリ・ツーリズムを円滑に行っていくためにはステークホルダーとなる様々なアクターとの連携や調整が必要であること、それが立地条件によって発展の方法にどのような差異をもたらすのかに関心をもつよ

うになりました。修士論文では青森県南部町（旧名川町）を事例に調査を行い（「地理学評論」80-11）、博士論文では山梨県南アルプス市（「地学雑誌」122-3）と今回の受賞対象となった山形県寒河江市の事例（「Geographical Review of Japan Series B」82-2）を加えた 3 つの地域を比較・検討しました。また、同じく今回の受賞対象となった長野盆地のリンゴに関する論文も私の研究テーマの延長線上にあるものです（「地理空間」3-2、「茨城地理」10）。

このような研究テーマに出会わせてくれた筑波大学の地理学教室に感謝するとともに、ご指導賜りました田林 明先生をはじめとする先生方や切磋琢磨した当時の院生の皆様に、この場をお借りして御礼申し上げたいと思います。また、今回の受賞を励みに、より一層、研鑽していきたいと思っております。

奨励賞 吉田国光会員（金沢大）

この度は地理空間学会賞・奨励賞を大変光栄に存じます。これまでの学生・教員生活を通じて常に叱咤激励をして下さった

多くの方々に深く感謝申し上げます。受賞対象となったもののほとんどは、修士論文や院生時代の野外実習にて取り組

んだ成果であります。テーマは「村落社会と農地移動」,「農村
景観の再考」,「在来工業」と一貫性がなく、節操のない研究姿
勢だと思われることでしょうし、自覚もあります。

しかし、これこそが地理学の面白さでもあるとも思います。
生物学は生物、経済学は経済といったように、ほとんどの学問
分野では○○学の○○が研究対象として定められることに対して、
ご存知の通り地理学は地表面に展開するもの全てが研究対象
となりえます。換言すると研究対象は「何でもあり」なため、
他分野の研究者からみると「専門性がない」と揶揄されるところ
かとも思います。では地理学の独自性とは何なのかと問われ
ると、共通理解としての“空間”や“スケール”という研究視点・
考え方にあると考えています。可視的な研究対象はそれぞれ異
なるために、一見すると違和感を覚えるかもしれませんが、精
読すると対象を捉える視点・切り口というのは、空間やスケ

ールという概念を通じて共通しているように思えるのです。
こうした考えのもとに諸現象の展開する仕組みなりを整理、
読み解いていった結果、研究対象は一貫性のないものとなりま
した。最近の学术界を取り巻く状況では、業績至上主義的風潮
がないとはいえませんし、若手の院生は標準年限で課程博士を
取得することが強く望まれています。この状況自体が悪とは思
いませんが、視点・考え方のみならず研究対象も限定して必要
最低限のタスクをこなして最短経路で、対象に縛られないとい
う地理学の醍醐味を十分に堪能することのないまま、独り立ち
することに一抹の不安を覚えます。実際に私自身は不安を抱え
たまま教壇に立っております。この度賜った賞は奨励賞であり
ます。“奨励”の意味を再確認し、与えられたポジションを活か
し、この不安を少しでも解消できるように精進してまいります。
引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

学会からのお知らせ

<会計委員会からのお知らせ>

1. 会費納入のお願い

多くの方々から会費の納入をいただいておりますが、若干名、
過年度の会費納入がお済みでない方もいらっしゃいます。未納
の方は、「地理空間」第 5 巻 2 号に同封した振込用紙でお支払
下さい。納付したか不明な方や振込用紙を希望の方は、事務局
までお問い合わせ下さい。大学を通じて電子振込みをされる場
合には、必ず氏名とご所属先の明記をお願い致します。

〔年会費の振込先〕

(ア) ゆうちょ銀行への振込（ゆうちょ銀行の振込用紙を使用）
口座記号：00120-5 口座番号：779957

(イ) 他の金融機関の口座からの振込

銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900
店番：019 店名：〇一九店（セ）ロイチキュウテン）
預金種目：当座 口座番号：0779957
受取人名：チリクウカンカ”ツカイ

(ウ) 年会費

一般会員 4,000 円 大学院生会費 2,000 円
学生会費 1,000 円

2. 「地理空間学会学術基金」の募金について

「地理空間学会学術基金」の募金活動について、会員の皆さま
まの一層のご理解とご援助を賜りますようお願い申し上げます。

〔地理空間学会学術基金の内容〕

名 称：地理空間学会学術基金

目 的：地理学の優れた研究者を育成することを目的として、
その研究活動の充実を図るための資金として活用す
る。

募集対象：本学会の活動理念を理解し、本寄付の趣旨にご賛同
いただける方。

ご依頼額：1 口 2 万円（何口でも可能です）

〔振込方法〕

(ア) ゆうちょ銀行への振込（ゆうちょ銀行の振込用紙を使用）
口座記号：00150-3 口座番号：707452

(イ) 他の金融機関の口座からの振込

銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900
店番：019 店名：〇一九店（セ）ロイチキュウテン）
預金種目：当座 口座番号：0707452
受取人名：チリクウカンカ”ツカイカ”クジ”ユツキキン

※ 基金への寄付をしていただいた方のお名前は、機関誌「地

※ 2013 年 4 月 1 日～6 月 3 日までに田林 明会員、匿名希望会
員によりご寄付いただきました。

の掲載を認めます。掲載論文の電子ファイルが必要な方は、学会事務局までご連絡下さい。

表紙の写真は、上海古北地区において多くの在留日本人が集住する、「古北新区」という地区の住宅地です。

現在、「古北新区」は日本人集住地域における住宅地として発展していますが、1990年代以前は外国人住宅地としてよく知られていました。1980年代中国における政治的配慮（安全保障・治安対策）と経済的対応（外資の導入）は矛盾する点が多く、外資を積極的に導入する一方、外国人の入国や入国後の居住地などは厳しく制限されていました。こうした背景の下、多くの外資企業が参入した上海市においては、外国人の住宅地不足と管理問題の解決策として、外国人住宅地が古北地区に建設されました。2003年以降は外国人に対する居住地制限が解除されました。その中で、古北地区においては在留日本人が主な入居主体となっており、日本人向けの生活関連施設も増加しています。そのため、外国人住宅地の性格を有していた古北地区は、2003年以降から日本人集住地域へと発展してきました。

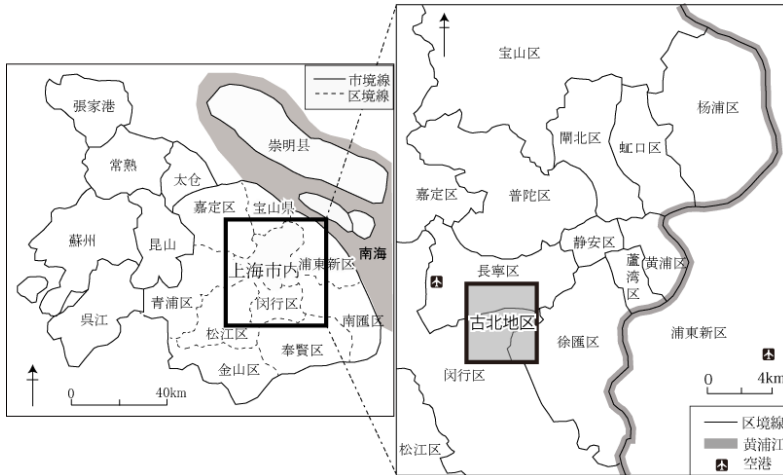


図 研究対象地域



写真 古北地区の住宅地

編集後記

ご案内のように、地理空間学会の第6回大会を、筑波大学筑波キャンパス春日地区で開催いたします。皆さまどうぞ奮ってご参加下さい。

ニュースレターでは学会関連情報を適宜掲載していきますので、掲載すべき情報やご要望がございましたら、事務局までお寄せ下さい。最新の情報は学会ホームページで随時更新しております。本会では、会員間の情報交換の手段として、メーリングリスト（jags-ml@geoenv.tsukuba.ac.jp）を開設しております。すでに多くの方に参加いただいておりますが、まだ登録されていない方でメールアドレスをお持ちの方は、ぜひご参加下さい。